

コミュニケーションする力や学ぶ力を育てるために、
目標・学習内容・評価が一体化した指導計画を基にした英語活動の工夫改善

学校名	瑞穂市立生津小学校
実施状況(学年・回数)	・第1～6学年：英語活動を実施 ・毎日10分間の全校英語活動(テレビ放送)
年間指導時数	・第1～6学年まで年間35時間の英語活動 ・毎日10分間の全校英語活動(テレビ放送)全25時間程度
指導体制	HRT(学級担任)とALT(外国人指導助手)、JET(英語担当教員)による3人でのTT指導
その他	文部省(当時)指定研究開発学校(平成6～8年度)

1 昨年度までの実践

- ・児童の実態に適するように単元指導計画の見直しを図った。このことにより理解に重点を置いた活動から表現活動へと展開していく単元や、同じ形態の活動でも内容を変化させながら繰り返し行う単元などを段階的に設定することができ、児童が活動の見通しをもち安心感をもって取り組めるようになった。
- ・目標、活動内容、評価の観点について一貫性をもった指導を目指してきた。そのことにより教師がより明確な目標を描いて授業に臨むことができ、児童も同じ観点で活動に取り組み、満足感を高めることができた。
- ・各単位時間内のTTにおいては、積極的にコミュニケーションを図りたいという意欲を支えるために、HRT、ALT、JTEのそれぞれの役割が明確になるような活動形態について工夫をしてきた。
- ・活動体験を想起できるような環境構成の工夫をすることにより、児童の活動意欲を高め、もっと表現をしたいという意欲や態度に結び付けることができた。

2 英語活動を通して目指す姿

(1) 第4学年までの児童の姿

- ・全員が「英語活動の時間が楽しい」とアンケートに答えている。
- ・活動の中ではできるだけ、多くの児童と活動しようと努力している。
- ・これまでに触れた英語を工夫して使用しながら活動を進めようとする事ができる。
- ・役割が明確になる対面型の学習形態を好み、限られた枠組みの中では、活動への抵抗感をもつことなく取り組む。
- ・新しく触れる表現を活動の中で使ってみようとする意欲をもち活動に取り組める。また、その努力によって自分自身の変容を自覚している。

(2) 英語活動を通して願う児童の姿

- ・簡単な英語で楽しい活動をしながら、気持ちや考えを伝え合おうとする姿。
- ・英語の表現に関心をもち、楽しく主体的にコミュニケーションしようとする姿。
- ・相手に対して思いやりをもち、コミュニケーションを図ろうとする姿。
- ・相手や場面、状況に応じて簡単な英語を用いて自分の思いを表現する姿。
- ・相手の伝えたいことを理解し、それについて適切に尋ねたり応えたりする姿。

3 本年度の重点実践内容

<p>単元の計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標、活動内容、評価に一貫性をもたせる工夫 ・ 他教科や他領域と関連付けた題材の工夫 <p>単位時間内における指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の見通しがもてるモデルスキットの充実 ・ 児童の発達段階に適した学習形態の工夫
--

4 具体的な実践

(1) 単元の指導計画

実施学年	5年	指導時期	10月
題材名	Food Culture ~ピザがわが家にとどくまで~		
指導目標	連想ゲームや産地あてゲームを通して、食に関する言葉や表現に親しみ、好みや考え等を意欲的に伝え合いながらコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 (全4時間)		
主に扱う語彙や表現	Where is this from? I think it's from China. I think so, too. I don't think so. onion, Potato, green pepper, corn, bacon, tomato, cheese, mushroom, garlic, chicken, ham, lettuce, America, India, Australia, Canada, Russia, France, China		
教材・教具	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピザメニュー ・ 食材カード ・ 県カード ・ 国カード ・ インタビューシート ・ 日本地図 ・ 世界地図 		

評価の観点	評価規準(実現したい具体的な姿)
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話題になっていることに興味をもち、自分の意見を伝えたり、相手の意見を尋ねたりしようとする。 ・ What do you think? How about you? 等を用いて、相手の意見を尋ねたり、相手の意見に反応しようとする。
英語によるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食物に関する自分の好みや意見を伝えたり、相手の好みや意見を尋ねたりする。 ・ 相手の意見を聞いて、“I think so, too. I don't think so.”を用いて反応する。
言語や文化についての気付き・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの食生活が国内外の各地の多くの生産者たちに支えられていることに気付き、日本と外国との食のかかわりについて興味をもつ。 ・ 身近な食べ物の言い方や日本とかかわりのある国々の名前に慣れ親しむ。

時間	目指す姿	主な活動内容	主に扱う語彙や表現	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 英語によるコミュニケーション 言語や文化についての気付き・理解

1	・連想ゲームをしながら、いろいろな食べ物の言い方に慣れ親しみ、楽しみながら味や好みや特徴を伝え合う。	・この食べ物なあに？連想ゲーム(ピザの材料として使いたい食材カードをそれぞれに持ち、ヒントを出して当てるゲーム)を行う。	It's (味/色/形等). What's this? Is it ~? Yes, it is. No, it isn't. onion, potato, green pepper, corn, ham, garlic, bacon, tomato, cheese, chicken, lettuce, mushroom	既習表現を用いながら持っているカードについてのヒントを出そうとしている。 身近な食べ物やその特徴を表す言い方に慣れ親しむ。
2	・人気ランキングあてゲームをしながら、食物を表す表現に親しみ、楽しみながら好みを尋ね合う。	・ピザ人気ランキングあてゲーム(ピザのトッピングの好みを調査してピザ店の人気メニューをあてるゲーム)を行う。	Do you like ~? Yes, I do. No, I don't. How about you? I think ○○ is No.1.	進んで誰にでも話しかけようとしている。 相手の好みを聞いて理解し、その結果から人気メニューを予想する。
3	・カードゲームをしながら、産地を尋ねたり答えたりする言い方に親しみ、楽しみながら産地を当てる活動を行う。	・産地あてゲーム(ピザに使われている食材の産地をヒントを基にしてあてるゲーム(国内編))を行う。	Do you have a ~ card? Where is it from? I think it's from Hokkaido. What do you think? I think so, too. I don't think so. Eggplant, sweet potato, Shrimp, squid, crab	話題になっている食材の産地に関する自分の意見を持ち、相手の意見を尋ねたり、自分の意見を伝えたりしようとしている。 I think it's from ~を用いて自分の意見を伝える。
4	・カードゲームをしながら、産地を尋ねたり答えたりする言い方に親しみ、楽しみながら産地を当てる活動を行う。(本時)	・産地あてゲーム(ピザに使われている食材の産地をヒントを基にしてあてるゲーム(世界編))を行う。	Tuna, pork, pineapple, beef, pork, America, India, Australia, Canada, Russia, France, China	相手の意見を聞いたり、相手の意見に適切に英語で反応したりしようとしている。 相手の意見を聞いて理解し、I think so, too. I don't think so. 等と自分の意見と比較して反応する。 身近な食べ物が多くの国から輸入されたものであることに気付く。

(2) 本時の授業について

活動の見通しがもてるモデルスキット

前時と同じ活動内容であるが、本時では相手の考えを聞いて自分の考えと比較したり、表現したりすることを目標にする。スキットでは意見が合う場合とそうでない場合を示したり、児童にも意見を求めて巻き込んだりするような工夫をする。

多くの子とかかわりがもてる活動形態

高学年においては、主体的に活動に取り組むことができる児童を目指し、スクランブルの活動にも挑戦させたい。本時は同じカードをもつペアを探さなければならないように活動を仕組み、誰にでも声をかけられるようにする。

考えを伝え合う必要のある教材の工夫

カードに描かれた食材の産地を考えるヒントがカードの裏面に書いてあるが、後半の活動で互いの予想をやりとりしたくなるような、簡単に答えを導き出せないヒントを工夫しながら与える。

(3) 本時の流れ (4 / 4) 評価 指導・援助 コミュニケーションについて 準備品 その他

過程	主な活動		評価・指導・援助
	児童	教師(HRT・ALT・JTE)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting ・ Song ・ Kids' Time ・ ALT's topics ・ Activities 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌に合わせて楽しくあいさつをする。 ・ "Food Song"を歌う。 ・担当のグループが中心になり、ミニゲームを楽しむ。 ・世界の様々な食品の産地について話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に様々なあいさつを投げかけながら一緒に楽しむ。 ・児童と一緒に歌い、表情豊かに歌っている子を認める。 ・担当グループの指導・援助をしながら、ゲームに児童と共に参加する。 ・缶詰等の実物を見せながら外国から輸入されている食べ物を紹介をする。 	<p>既習の表現を使って受け答えをし、楽しい雰囲気です活動が始められるようにする。</p> <p>リズムにのって楽しく歌えるような雰囲気づくりをする。</p> <p>担当グループの児童が、スムーズに活動が進められるように指導・援助する。</p> <p>既習の表現を用いて楽しいゲームを考え、友だちに進んでそれを伝えようとする積極的なコミュニケーションの姿のよさに気付く。</p> <p>輸入食品(実物)</p> <p>児童の反応を見ながら理解できるかを見届け、必要であれば言いかえたり繰り返したりしながら表現をする。</p> <p>モデルスキットでは、本時触れさせたい質問やそれに対する反応の仕方が理解できるように、繰り返したり問い返したりする工夫をする。</p> <p>ワークシート(世界地図)、食材カード(裏面に産地のヒントつき)、食材シール</p> <p>児童の活動の進捗状況を見届けることができるように正解を見つけたら手持ちのワークシート(世界地図)にシールを貼らせるようにする。</p>
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">ペアを見つけて産地あてゲームを楽しもう。</p>		
	<p>H: Hello. A: Hello.</p> <p>H: Do you have a cheese card?</p> <p>A: Yes, I do.</p> <p>H: Where is it from?</p> <p>A: (カード裏のヒントを見て)</p> <p style="padding-left: 40px;">I think it's from France. What do you think?</p> <p>H: I think so, too.</p> <p style="padding-left: 40px;">Let's go to the check corner.</p> <p>A: O.K.</p> <p style="padding-left: 40px;">(チェックコーナーで答えを確かめ、合っていれば世界地図に食材シールをはる。)</p> <p>H: Thank you.</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・教師によるスキットを見たり聞いたりして、本時の活動を知る。 ・同じ食材のカードをもつ子をさがし、カード裏面のヒントを手がかりにして産地を相談する。正解チェックコーナーに行き、答えを確かめる。合っていれば食材シールを手もとの世界地図に貼って 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルスキットを示し、活動の見通しをもつことができるようにする。 ・役割分担をして、児童と一緒に活動する。 ・児童の様子を見て、次々と相手を見つけないが活動を進んで行っている児童や、相手の意見に対して、適切な反応をしている児童を中 	<p>最初は簡単にペアを見つけることができるようにカードを配布する時には配慮する。</p> <p>また裏面の産地のヒントは国旗等の簡単なものにし、何度もタスクにチャレンジできるように工夫をする。</p> <p>自分の意見をなかなか表現できない児童には、What do you think? Is it from ~?等と答えを引き出すような支援を担当が中心になって行う。</p> <p>自分の姿を振り返るために仲間に意見を尋</p>

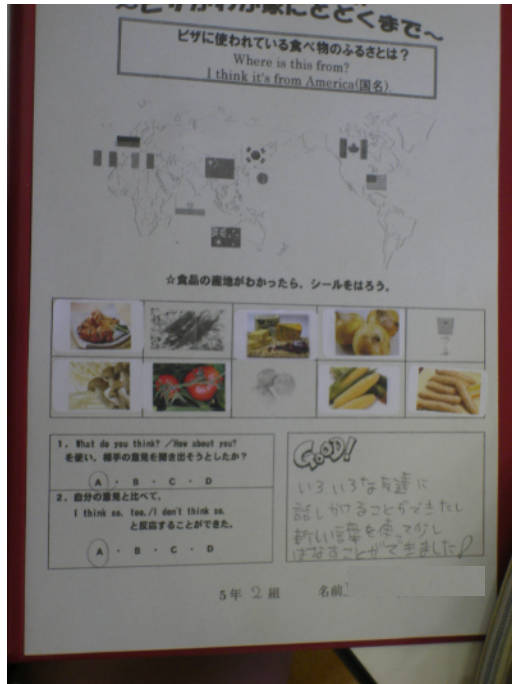
<p>・ Comment</p>	<p>いく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次々と新しいカードをもっていろんな子に声をかけ意見交換をする。 ・中間コメントを聞き、後半の活動に生かす。 ・本時の評価の観点に基づき自己評価をする。 ・English Leader や教師による活動の評価を聞く。 	<p>間コメントで認め、広める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人の教師がそれぞれの立場で本時見られた児童のよい姿を認め、広める。 	<p>ねる。また、その内容を聞いて意識的に反応することもコミュニケーションであることに気付く。</p> <p>仲間の話を聞いたり、自分で見付けたりしながら日頃から食している私たちの生活の身近な食品の多くが、外国から輸入されているものであることに気付く。</p>
------------------	--	---	---

5 実践の検証

- (1) 実践後、2学期末の意識調査において、第5学年の児童は9割以上の児童が英語活動の時間は楽しいと回答している。また本单元のような生活にかかわることや、他教科等で学んだことに関する内容には特に関心が高く、意欲的に活動に取り組むことができる。
- (2) 本実践は、社会で学んだ食料生産とかかわらせた題材である。私たちの食生活が多くの国によって支えられていることは理解しているが、実際にどんなものがどこの国から輸入されているのかの知識は十分ではない。そこで、児童がよく知っていると思われることをヒントにして、産地を予想する活動にした。また、必然的な場面を設定することで仲間と楽しくコミュニケーションを図ることができた。
- (3) ALTの話や教師が示すモデルキットでは、児童が活動で使うと思われる表現を取り上げたり、児童に特に指導したい場面を見せたりしてきた。教師の意図的な支援により、児童が活動の見通しをもつことができた。
- (4) 題材を生かすことを重視することで、扱う英語表現が複雑になってしまったり、既習の表現を十分に生かせなかったりなどの課題も見られた。

6 資料

資料1 児童のワークシート



資料2 クイズの答えを確かめるコーナー



資料3 意見交換をする児童

